

1 自己評価及び外部評価結果

(グループホームふじの花荘)

事業所番号	0673000469		
法人名	社会福祉法人ふじの里		
事業所名	グループホームふじの花荘		
所在地	山形県鶴岡市藤の花1丁目18-1		
自己評価作成日	平成 26 年 9 月 8 日	開設年月日	平成 14 年 3 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは、月山や鳥島山が見渡せる旧藤島町の中心部に位置し、緑豊かで閑静な住宅街に隣接した福祉エリア内にある。職員は、入居者一人一人のその瞬間の思いや意向を尊重し、BPSDによる行動障害があっても受け入れることの大切さを理解し、ケアを通じて幸せな時間を過ごせる様努力している。地域の中では運営推進会議を通じて、地域行事への参加や当施設での行事に参加して頂くなど、地域の方々との交流が広がってきていると感じている。今後も地域の中で入居者がいきいきとした生活を送ることができるよう支援していきたいと考えている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 26年 10月 6日	評価結果決定日	平成 26年 10月 27日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

年々地域交流が深まる中、管理者は常に向上心と研究心を持って毎年新しい取り組みにチャレンジしています。今年はおレンジプラン(認知症施策推進5か年計画)の勉強から、オレンジカフェ(認知症カフェ)開催に漕ぎ着け、ボランティアの力を借りながら実施に至っています。利用者・家族・地域住民が一緒になって笹巻き作りや人形劇などお茶を飲みながら楽しみ、認知症の方とその家族、事業所への理解と支援をお願いします。取り組みは市へ報告し来年にむけての活動に応援してもらえるよう期待もしています。また、「あなただけの特別プラン」など事業所独自の個別ケアで満足感を味わってもらい、生活リハビリをサポートしながら潤いのある日常生活で利用者・家族を支えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「快適な環境で個々の能力に応じた生活リハビリを継続し、趣味や地域行事への参加をしながら楽しい生活が送れるよう支援する。」と掲げ、年度初めでの運営会議で確認し、常に意識できるよう事務室内壁面に掲示し、実践に努めている。	利用者が日課としている朝掃除から体操、買い物、食事の準備や後片付けなどの生活リハビリを職員はサポート役で支援している。ボランティア等の支えもあり、地域と関わりながら理念に沿った取り組みが出来ている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議での町内会長や民生委員の参加により、地域行事などの情報交換を行っている。また、今年度より、認知症カフェの開催を試している。ボランティアの受け入れも実施しており、利用者と日常的に交流している。 <input type="checkbox"/>	今年度はオレンジカフェ(認知症カフェ)を開催し、地域住民や子供達、ボランティア等との気軽な交流から事業所を理解してもらう事に繋げている。毎回職員が企画担当し、笹巻き作りや人形劇など利用者が一緒に楽しめるものになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接する地域包括支援センターと共同で、地域の人々や小学生に向けての認知症についての勉強会を行っている。 <input type="checkbox"/>			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、会議を開催。グループホームでの生活の様子やその他の事業について報告を行い、構成員から意見や要望を取り入れている。改善すべき点に関しては、職員全体で会議の中で検討し、取り組みに繋げている。 <input type="checkbox"/>	会議では、事業所からの状況報告と共に防災・避難訓練への協力要請やオレンジカフェの案内など取り組みへの理解と支援をお願いしている。地域から行事等への誘いがあり、双向方向的な会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外でも市の担当者と利用者、職員と一緒に食事を楽しむ機会を設け、より密に情報交換を行い、協力関係を築けるように計画している。 <input type="checkbox"/>	バイキングの昼食会に参加した市担当者からは利用者の姿に感銘を受けたとの感想をもらい、交流がより良い協力関係の基になっている。また、地域包括支援センター職員からの認知症勉強会も実施している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけた工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	在宅部門研修会において、身体拘束についての勉強会で学んだことを日々の業務の中で意識している。また、ご家族にも入所時や随時、状況に合わせて説明、話し合いを行っている。特に帰宅願望の強い方にはそれぞれの利用者に合わせて対応が行われている。 <input type="checkbox"/>	研修会で周知を図りながら、利用者一人ひとりの行動パターンを把握し、それに合わせて対応も変えながら自由に暮らせる生活を支えている。時には隣接の法人施設の応援を得て見守り強化に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	在宅部門研修会の中で、虐待についての勉強会で学んだ事を日々の業務の中や職員個人で1年を通してチェック表を定期的に記入し、自らが行っているケアが虐待に当てはまらないかを確認しながら対応している。 <input type="checkbox"/>		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会を行い、理解に努めている。 <input type="checkbox"/>		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にも何度か利用者やご家族との面談を重ね、利用者、家族の希望を考慮しながら、解りやすい説明を心がけ入退所時の不安軽減に努めている。 <input type="checkbox"/>		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当の職員が一人一人の利用者と相談や傾聴できる時間を設けて、随時検討を行っている。また、ご意見、ご要望カードの窓口を設けたり、在宅アンケートを行なうことで家族の意見を取り入れている。介護相談員の受け入れを行っている。	担当者は利用者と馴染みの関係づくりに努め、介護相談員に話した声も大事に受け止めてケアにあたっている。家族等とは面会時やお便りで事業所での様子を共有し、連絡を密にしてサービスに反映させている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年全職員対象に、自己申告書内で、法人に対する要望・提案等を出してもらい運営に反映させるようにしている。また、日常の業務の中や毎月の会議等で職員の意見を取り入れ、入居者・職員の為のより良い運営を検討している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の仕事への取り組みを常に観察し、毎月の会議での発言の機会や内部・外部研修への参加、専門誌の定期購読、チャレンジ目標管理シートで職員の希望を取り入れ、資格取得への働きかけを行っている。 <input type="checkbox"/>		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の会議での提案や在宅部門研修会への参加、外部の研修(自主研修も含む)への参加を行っている。また、参加者は復命報告し、事業所職員全体の質の向上が図れるようにしている。	管理者は色々な方面から研修材料を集めて勉強会を行い、全員で統一したケアを目指している。個人の年間研修計画があり、自己評価チェック表等を基に面談をして経過も確認し、スキルアップを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣の施設との連絡調整を行いながら、合同行事を行なっている。また、山形県認知症高齢者グループホーム連絡協議会を通し、研修会や交換実習で情報交換や交流を図っている。 <input type="checkbox"/>	藤島地区事業所合同の交流会には利用者も一緒に参加して花見や輪投げ大会などを楽しんでいる。交換実習では受け入れた職員、実習に参加した職員双方から感想を出し合いサービスに繋がる交流になっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所申し込み時や事前面接時にご本人や家族の要望や思いを聞き、できるだけ在宅時の生活を継続して送れるよう努めている。日々の関わりの中でご本人の声を聴きながら安心して生活ができるよう環境面等にも留意するなど、担当職員が中心となり、信頼関係を築いていけるよう努めている。 <input type="checkbox"/>			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けた時、事前面接、契約時にこれまでのご家族の思いや体験、また不安な事、必要な事、希望などを聞き、共に支え合う仲間としての関係を築いていけるように努めている。 <input type="checkbox"/>			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態に応じて、グループホームでの共同生活が可能か、何が必要か探りながら、ご本人とご家族の状況を踏まえ、必要に応じて他事業者の紹介やサービスについての情報を提供している。 <input type="checkbox"/>			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これまでの生活歴や経験を活かして共同生活の中でも一人一人が日常生活の中に希望や役割ができるように食事の手伝いや食器拭き、テーブル拭き、洗濯物を干したり畳んだり、掃除をしたり職員と一緒に施設周辺を散歩に行ったり、共に過ごし学び合う関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後はご家族との連絡を密に行い、共に連携・支え合って支援していくように努めている。ご本人とご家族の関係によっては、面会の回数も少ない方がおり、通院はなるべくご家族にお願いするなど、事業所と家族との役割分担を行っている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限を設けず、可能な限り、ご家族や馴染みの方々との交流が図れるようにしている。ご本人が入所前に行っていた地域の理美容室を利用したり、友人やご家族との外出で馴染みの店で食事をしてもらったりしている。 <input type="checkbox"/>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や行動、他者との関係性を観察しながら、状況に合わせて日々の活動や行事への参加時配慮し対応している。 <input type="checkbox"/>			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人内の他事業所より、退所後の情報を得るなど把握している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や生活の様子から希望、要望を聞き取り、状況に応じて対応している。訴えの内容によってはご家族との相談や毎月の会議の中で検討している。 <input type="checkbox"/>	誕生日には「その方の好きな一日」をプレゼントしている。その日は担当者と一緒にいきたい所や外食に出かけるなど満足感や特別感を味わってもらい、ゆっくり話が聞ける機会になっている。また、訴えがなくても気持ちを汲みとる観察力をもって職員皆で支えている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人が利用されてきた事業所やご本人、ご家族等から生活歴や嗜好を聞き取り、これまでの暮らし方や習慣等を参考に、日常生活の中でお互いに信頼関係を築けるように生活歴・サービス利用の経過等の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身の回りのことや家事作業等を職員が一緒に行う事で、一人一人の過ごし方を総合的に把握し、一人一人のできること、できないこと、やりたいことなど本人の能力の開発を職員間で行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族からの要望を聞き、担当職員とスタッフ全員から意見を出してもらいながら定期的に見直しを行い、ご本人の意向を重視した介護計画を作成している。	毎日サービス内容ができたかどうか確認して評価に繋げ、より現状に即した介護計画になるよう見直しも行っている。利用者のサインを見逃さず気分転換に特別プランを盛り込むなど個別ケアで支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきやご本人・ご家族からの希望を個人ケース記録に記入し、必要な情報は申し送りとしてパソコン上で共有している。また、ケース会議において検討、見直しを行っている。 <input type="checkbox"/>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望を考慮しながら、馴染みの地域の理美容室への外出の支援や施設への出張も行っている。毎日の買い物も利用者と一緒近くのスーパーを利用している。地域の町内会主催の環境整備事業(草むしり)にも参加している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関として内科と歯科の2医院を確保はしているが本人や家族の希望する医療機関を受診して頂いている。通院時には情報提供表を作成し、必要時には職員も付添いしている。	かかりつけ医の受診は家族側による付き添いを基本とし、状況により職員の代行など柔軟に対応し、結果について共有を図り支援している。精神科に受診の際は職員も同行して状況を確認している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所としての看護師配置はないが、異常や気づきがあれば随時法人内の看護師へ相談を行い協力体制を図っている。 <input type="checkbox"/>			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の主治医、病棟の看護師長や医療相談員の方々と、退院後も適切な支援ができるように情報交換を行い、早期の退院に向けて状況把握に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご本人やご家族から重度化した場合や終末期に対しての意向を確認している。入居者の安心と安全が確保できるように他事業者や医療機関と連携を図りながら支援している。また、事業所内では終末期介護についての研修も計画し実施している。 <input type="checkbox"/>	ターミナルケアについて研修を重ね、職員は命の倫理や支援の大切さについて認識をしている。看護体制が取れず看とりを行うことはできないが、重度化した場合には隣接する特別養護老人ホームと連携しながら、対応し得る最大のケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の防災計画に沿って救急蘇生法講習会への参加を行い、繰り返し緊急時の対応について訓練している。また、緊急時マニュアルを作成し職員に対して理解と周知を図り、いつでも使える場所に置き対応できるようにしている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画に沿って避難訓練を行い、消防職員からの指導を受けている。また、法人全体での避難訓練のほか、地域の防災訓練にも参加している。運営推進会議の中で、災害時の避難先や協力体制について話し合いを行っている。	災害時における地域との協力体制を構築し、地域住民も参加して避難訓練を行っている。隣接する特別養護老人ホームなど法人全体で防火管理体制を組織し、施設内における応援協力体制も確立し、災害防止に努めている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声掛けや接し方を心掛けて、入居者の尊厳と権利を守りながらプライバシー保護に努めている。また、事業所内では毎年1回プライバシー保護についての独自のマニュアルを活用し、自らのケアを確認できるようにしている。	カーテンの開閉でも転倒する危険性があることなど、本人の意思を尊重することで多少のリスクが伴うことを家族側と共有し、本人にとって安全が優先なのか何が最良なのかを常に話し合い、過剰な介護にならないよう注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	行事に関しては計画の段階で利用者の意見を取り入れるようにし、参加不参加においても本人の意思を確認している。外食時も本人の希望するものをメニューの中なら選んで頂いている。また、個々の突発的な外出や買い物にも随時対応している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人一人の意向を大切にしたい支援ができるように心掛けている。突発的な希望や催し物があった時に、希望があれば業務よりも優先し対応している。 □			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人より希望・要望を聞き取りながら、身だしなみやおしゃれができるように支援している。なじみの理美容室へ行ったり、衣類等の買い物をしたりしている。 □			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好の調査を行ったり、季節食を献立に取り入れている。年4回のバイキングや手作り弁当での外出を実施するなど食事を楽しむ工夫をしている。職員と一緒にメニューを考え、調理を行い、片づけも一緒に行っている。	嗜好調査を行ってメニューを作り、利用者と一緒にスーパーで買い物をしたり調理も手伝っている。厨房から漂う音や匂いが五感を刺激して食欲をそそり、職員も一緒にテーブルを囲んで食べている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の様子や身体状態から、個人にあった食事量を提供している。また、摂取量をチェック表に記録し、適切な栄養や水分量確保に努めている。月1回、利用者に向けて栄養士による栄養についての勉強会を行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きを促し、口腔ケアの徹底を図っている。なるべく自力で行って頂くように支援し、最後に職員が確認する様にしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄サインを見逃さず、できるだけトイレで排泄できるように失禁の軽減に努めている。また、排泄チェック表も活用し個々の誘導のタイミングを把握する様にしている。 <input type="checkbox"/>	利用者の動作を察してトイレに誘導し、自力排泄を促すようにしている。失禁時にも周囲にわからないようにさりげない言葉で誘い、羞恥心や不安を軽減するための配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表の活用により、個々の排便状況を把握し、予防のために繊維質の多い献立や水分量の調整、適度な運動ができるように心掛けている。 <input type="checkbox"/>		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	普段の会話から一人一人の希望を把握し、可能な限り個々に合わせた入浴(時間や回数)ができるように支援している。また、隣接の特養ホームの大風呂を楽しめるよう支援している。 <input type="checkbox"/>	自分でできることはしてもらい、洗髪などの介助をしながら傍で見守り、ゆっくりと入浴できるように支援している。入浴剤の使用や季節によってゆずやバラを浮かべて、誕生日には希望に応じて日帰り入浴などの個別対応で楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の日常の過ごし方や生活習慣を把握し、個々の生活パターンに合わせた休息、睡眠を取って頂けるよう、日中適度な運動や外出等を行い、夜間を中心にゆっくりと休んで頂けるよう支援している。 <input type="checkbox"/>		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋を確認しながら、職員全体で数量や効果、副作用などについてを把握している。服薬内容が変わった際など、申し送りを行い、職員全体で症状の変化について、留意して対応するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまでの生活歴や経験を活かして出来る事は積極的に行ってもらっている。個人の能力や希望を取り入れて、それぞれに役割(食事の手伝い、後片付け、裁縫、畑仕事など)を持って頂く様に支援している。また、日常的にレクリエーションや行事、散歩やドライブ等に出掛け気分転換が図れるようにしている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の様子を見ながら、施設周辺の公園に散歩に行ったり、畑で野菜を収穫したり、なるべく室内にこもる事がないように支援している。買い物など個々の希望に合わせて随時対応している。また、誕生日にはその人の希望するところへの外出などができるよう支援している。 <input type="checkbox"/>	花見やチューリップの見学など、季節やその時々地域の状況に応じて出かけ、手作り弁当や外食を楽しんでいる。スーパーの買い物にも同行するなど、本人の状態に合わせて持っている力を発揮できるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭については、原則、個人管理としている。個人で財布を持っている方もおり、買い物の際に支払いを行って頂く場合がある。管理が難しい方については、金銭出納帳に記入し、定期的にご家族に報告を行うことで紛失やトラブルの防止に努めている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人より訴えがあった際には、随時対応している。また、レクリエーションで作成した絵手紙を送ったりと、ご家族とのやり取りができるように支援している。 <input type="checkbox"/>			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備を常に意識して、利用者と共に毎日清掃を行っている。季節の花を欠かさず飾ったり、デスクスペースで利用者が育てている鉢が並び、目を楽ませる工夫をしている。また、水やりなどの日課も大事にしている。事務室と共有スペースの間にあったガラス戸を一部取り払う事で更に利用者との職員の距離が近くなっている。 <input type="checkbox"/>	利用者が多くの時間を過ごすリビングは常に清潔を保ち、飾り付けや装飾品に配慮して落ち着いたある家庭的な雰囲気配慮している。畳のスペースを設け冬にはコタツを囲んで寛ぎ、利用者の習慣や状態の変化を考えて環境づくりに努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルのある食堂スペースや、畳の和室スペースなど、利用者の気分に合わせて過ごせる複数の空間を設けている。また、畳スペースにソファを置くことで、自由に気の合った利用者同士で過ごすことができるように工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、特に新品を購入する必要はない事を、ご本人ご家族に説明し、ご自宅で使用していた馴染みの物を使って頂けるよう支援している。居室については、個々が過ごしやすい様に担当職員と相談しながら家具等を配置し使用して頂いている。 <input type="checkbox"/>	各居室の入り口に利用者が手書きした表札を目線に合わせて掲げ、避難誘導確認のランプも設置されている。自宅との環境の違いを感じさせないように配慮し、それぞれに落ち着いた居室づくりを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	排泄が自力で行える方にわかりやすい様に、トイレの表示を廊下に掲示している。 <input type="checkbox"/>			